

「魚のゆりかご 東京湾のアマモ調査」に参加して

小平市立小平第六中学校 理科 小林 順子

1、参加の動機と調査内容

以前にアマモについての番組をテレビで放映しており、そこで初めてアマモの存在と、その浄化能力や生物多様性を支える場となっていることを知った。アースウォッチ・ジャパンのプログラムにアマモのプログラムがあり、興味をもっていたが、今回は、勤務を終えてからの途中参加も可能であることを知り、参加をさせていただくことにした。

調査は、6月19日（金）、20日（土）の2日間のうち、20日のみに参加。当日、調査に出かける前に、仲岡先生から、アマモや藻場についてのレクチャーをしていただいた。当日は天気にも恵まれ、風も弱く、スムーズに調査を進めることができた。具体的には、アマモやコアマモの被度調査とともに水深や二枚貝などの出現も記録した。

調査中、または調査の前後で、何種類かの海の生物の観察をすることもできた。

2、授業での紹介

3年生の授業では、年度の最後の方に『自然環境と人間の関わり』という単元がある。今回の内容はそこで扱う内容であるが、一学期の終わりに、授業の進度が速いクラスがあったため、単発的ではあったが、今回の調査についての紹介をした。

仲岡先生からいただいた資料を使わせていただき、「アマモとは?」「藻場の役割」「温暖化が与える影響」などの説明をした。また、調査の様子や海の生物について、写真を見せながら紹介をした。

3、生徒の反応

ほとんどの生徒がアマモの存在を初めて知ったようで、今回の授業では、以下の3点について感想を書いた生徒が多かった。また、「何でアマモって言うんですか?」など、自分では思いつかないような質問も出て、「色々と感じてくれたんだなあ」と、生徒が興味をもってくれたことを、その場で実感することができた。

- ①アマモや藻場は、水の浄化作用をしていて、とても役に立つ植物ということ。
- ②海には色々な生物いるということ。
- ③自分たちの知らない所で、地道な調査をしている人たちがいるということ。



〈生徒の感想〉

アマモがなくなってしまうと、熱帯雨林の木がなくなってしまうより大変なことが起こると言うことを知って少し驚きました。「温暖化が起きているんだな」と他人事のように思うだけでなく、海の変化や大気の変化を気にかけたいと思いました。	初めてアマモという植物の存在を知り、水質を向上させ、東京湾などの浄化に必要なものであるということも知りました。このように生物というのは、人間が知らない所で、地球の環境の向上に貢献しているのだな、と強く感じました。
今まで地上の植物ばかりを勉強してきたので、水中の植物の話はなかなかおもしろかったです。海の中は魚だけでなく、僕たちの知らないような貝や海そうで溢れているということを知りました。	東京湾にもおもしろい植物があるんだな—と思い、僕も色々な植物を探してみたいと思いました。こういった自然の調査などとても興味がわいたので、いつか僕もやってみたいです。
アマモの役割はミミズと似ているなと思いました。これらの生物のように汚れを栄養分としてくれる生き物がいることを忘れないようにしたいです。種子植物について中1で学んでいるので、とても興味深かったです。	アマモは知名度が低いのに、『水質を良くする』という大切なはたらきをしていることに驚きました。頑張っているアマモ、もっと知名度があがればいいな、と思いました。そして保護活動などが広がればいいなと思いました。

〈教科書じゃない自身の体験を語る事の、子ども達の学びへの影響〉

まずはなんと言っても、「生徒たちが問題意識を身近に感じることができる。」という事です。『温暖化』や『水質汚染』という言葉はもちろん、その影響についても、教科書や、その他のメディアを通して知っている生徒は多くいるものの、それが身近にあって、自分たちにも大きく影響しているんだということは実感できないようです。ところが、日頃、授業を教えてもらっている、教師という立場の私が実際に体験した、というだけで、問題意識をぐんと身近に感じる事ができたようで、自然環境の大切さを、改めて考えた生徒が多かったように思います。また、「私が調査に参加した」という事を知って、「自分も調査に参加したい」という感想を何人かの生徒が書いており、将来、具体的に活動するきっかけづくりができたのではないかと思います。

〈写真〉

